

◆企画名	<u>2018年度 ピア・サポート交流会</u>
日 程	<u>2019年2月13日（水）</u>
場 所	<u>第2学舎2号館 C301教室</u>
参加者数	<u>30名（ピア・サポート19名、学生支援室TA1名、教職員3名、県立広島大学職員2名、神戸学院大学 学生3名、職員1名、桜美林大学 職員1名）</u>

目的

他大学のピア・サポート活動の内容を知り、同時に他大学のピア・サポートと交流することで、自らの活動の在り方を再考し、新たな気づきや発見を得ることで、今後の円滑なピア・サポート活動につなげる。

内 容

第1部 10:00～11:10	オープニング（交流会の趣旨説明）、開会挨拶 参加大学の活動紹介
11:10～11:40	アイスブレイク「10筆お絵描き」
11:50～12:50	昼食会兼懇親会
第2部 13:00～14:50	ワークショップ「よりよいピア・サポートを考えよう」
第3部 15:00～16:40	ワークショップ「組織のマネジメントを考えよう」
16:50～17:00	エンディング

効 果

- ・活動紹介のプログラムでは、各コミュニティや他大学のピア・サポート団体の活動や課題を共有する機会を提供でき、参加者が今後の活動に活かせる「気づき」を得る機会となった。
- ・アイスブレイクでは大いに盛り上がり、後の昼食会や第2部をよい雰囲気で実施できた。
- ・菓子や飲み物を用意したため、それを配布することを機に、議論が活性化した。
- ・他大学生と交流する機会となり、新たな出会いの場を提供できた。
- ・本企画は、他大学を巻き込んでの企画であり、外部への広報、やり取りといったノウハウを獲得する機会となった。

改 善 点

- ・企画の実施時期がよくなかった。本企画は、立ち上がりが遅く、春休み期間中の実施となってしまった。長期休業中の実施は、他大学からの参加者の減少につながったと考える。また、当日もインフルエンザなどによる欠席者が多く発生した。今後、同様の企画を実施する際は、より気候のよい秋に実施すべきと考えている。
- ・ピア・サポートをもっと企画に巻き込むべきだった。本企画は、「他大学交流会を実施したいがノウハウがない」というピア・サポートの声にこたえる形で実施した企画である。そのため、もっとピア・サポートに対してもノウハウを伝える機会を設けるべきだったと考える。
- ・他大学への広報をもっと検討すべきだった。今回は、各大学に対して資料を送付する形をとったが、反応は芳しくなかった。そのため、SNSなど新たな広報手段を検討すべきと考える。

感 想

- ・コミュニティや大学の枠を超えた交流の機会を提供できたことは嬉しく思う。様々な立場の人の意見を聞くことを通じて、各コミュニティが活性化すれば、活動も継承されていくと考える。
- ・昨年度実施した、「ピア・コミュニティ 10周年記念事業」と続けて、他大学に参加いただく企画を開催できた。今後も、継続的にこのような機会を設けることで、新たな出会いと気づきを得てほしいと思う。
- ・シニア・サポートとして、活動の継承につながる企画を継続的に、また前例にとらわれず実施してほしいと思う。